

消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	ロープブリッジ救出訓練中、チロリアン渡過を2名で実施中訓練塔A塔の壁面に先に渡っていた隊員が頭部をぶつけたもの。
3. 体験した事例の中心的要素	訓練再開時において訓練実施隊員及び安全管理員による展張力の未確認。ロープ展張力の低下及び隊員の認識不足。
4. 体験した事例の原因・理由	ロープの展張力の低下により頭部をぶつけるという認識不足。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。 行動の意志決定に問題があった。
------------------	---------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成 20 年 5 月 10 日 午後 4 時頃
2. 発生した当時の天候	雨
3. 発生した活動現場	屋外：訓練塔 A 塔、B 塔
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	
7. 事例体験時の活動	演習訓練 [救助 (大会に向けた訓練)]
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	渡過訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[28]歳、 勤続年数[6]年、 現場経験年数[5]年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [その他 : ロープブリッジ救出 1 番員]
○当事者 B	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	救助隊	ロープブリッジ救出訓練の為、ブリッジ線を設定。	
経過 2	救助隊	ロープブリッジ救出訓練を実施するため、展張力を確認（700kg）後、訓練開始。	
経過 3	救助隊	休憩。	
経過 4	救助隊	ロープブリッジ救出訓練を再開。	この時点での展張力の確認未実施。
経過 5	A	訓練塔B塔にて他の隊員と要救助者救出側の訓練を開始。	
経過 6	A	訓練塔B塔での訓練を終了し、ブリッジ線の撤収作業の為、Aを先頭に他の隊員1名と共にチロリアン渡過を実施。	
経過 7	A	Aが訓練塔A塔壁面に頭部を激突。	
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 solid black circular dots, evenly spaced from left to right.

○事故の場合

：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。危険事象の対応方法を知らなかつた。周囲の視界が確保できていなかつた。指揮者が適切に指示しなかつた。他隊(員)から適切な注意を受けられなかつた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
 - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。

b. 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。

・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。

いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があつた。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

慣れや無知からの危険の排除。安全管理に対する隊員間の意識及び知識の向上。

○装備・資機材の対策について

展帳計の指針の確認を実施する回数及び確認する時間の明確化。

○活動環境の対策について

安全管理員の適正配置の徹底。

○指揮・情報伝達の対策について

